

# 国際文化会館の歩み 62

2016年4月—2017年3月



公益財団法人 国際文化会館  
International House of Japan



# 目 次

はしがき	4	アーカイブ化準備	29
プログラム活動	6	団体功績表彰	29
I. 知的対話プログラム	6	VI. 協力・後援事業	30
アジア・リーダーシップ・フェロー・		協力	30
プログラム(ALFP)	6	後援	30
牛場記念フェローシップ	8	組織運営の概況	31
日印対話プログラム	8	I. 法人組織関連事項	31
日米国際金融シンポジウム	9	理事会・評議員会	31
II. 人材育成プログラム	10	役員関連事項	31
教育プログラム	10	委員会関連事項	31
新渡戸国際塾	10	職員関連事項	32
海外諸団体との連携・協力プログラム	13	庶務関連事項	32
日米芸術家交換プログラム	13	II. 募金活動	32
III. パブリック・プログラム	16	助成金・寄付金	32
講演・シンポジウム	16	III. 会員	33
Architalk～建築を通して世界をみる	16	個人会員	33
アイハウス・ランチタイム・レクチャー	17	法人会員	33
日本理解プログラム	18	優待会員	33
japan@ihj	18	図書会員	33
IUCレクチャーシリーズ	18	会員晩餐会	34
日文研・アイハウス連携フォーラム	19	新入会員懇親会	34
Delve into Japanese Culture @ I-House	20	「国際文化会館の庭	
特別プログラム	21	——作庭家 重森千青氏と歩く」	34
『Paper Lanterns』		IV. 施設関連事項	35
日本プレミア上映会&トーク	21	V. 施設運営・サービス活動	35
出版	22	VI. 財政	36
公益信託長銀国際ライブラリー	22	会員関係付表	37
アイハウス・プレス	23	個人会員国籍別統計	37
定期・不定期刊行物	23	会員比率	39
IV. 調査研究プロジェクト	24	法人会員一覧	40
外交問題夕食懇談会	24	財務諸表	42
V. 図書室	25	理事・監事・評議員	47
利用状況と蔵書管理	25	職員	49
リーディングセッション	27	組織図	50
書籍小展示	29		

# はしがき

2016年は、オバマ大統領が現職の米国大統領として初めて広島を訪問し、リオ五輪ではコソボと南スーダンが初出場を果たしたほか、史上初となる「難民選手団」が結成されるなど、平和について考える機会が数多くあった年でした。一方で、無差別テロや北朝鮮の脅威が増し、世界中が大きく揺れ動いた一年でもありました。なかでも、国内の分断が顕著な形となって表れた英国のEU離脱と米大統領選でのトランプ氏の勝利には、事前予想とは異なる結果に世界中が驚きました。そのような中、国際文化会館では設立当初からの理念である「日本と世界の人々の文化交流を通じた相互理解の促進と平和構築」を目指し、アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラムや新渡戸国際塾、日米芸術家交換プログラムをはじめ、日本理解プログラムやランチタイム・レクチャーなど、例年行っているプログラムを、国内外の多彩な講師をお招きして実施してまいりました。

さらに、本館の保存再生工事完了10周年を記念し「Architalk～建築を通して世界をみる」を新たに立ち上げました。日本近代建築の巨匠である前川國男、坂倉準三、吉村順三が共同設計した唯一の建物でもある国際文化会館に、国内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界を考える

機会を設けたものです。建築家を目指す学生も多く参加し、現代と未来を担う建築関係者の交流の場としての役目も担っています。

またドキュメンタリー映画『Paper Lanterns』を、日本でいち早く上映いたしました。自らも被爆者でありながら、原爆の犠牲となった米兵の足跡を40年以上にわたって丹念にたどり、その遺族と交流してきた森重昭氏の姿を米国人監督が追った映像は、国や国籍を超え、多くの人々の感動を呼びました。そしてこの映画の存在こそが、平和の灯を背にオバマ氏と森氏が抱き合う印象的なシーンを生み出したと言っても過言ではないかもしれません。

3年越しの招聘が実現した牛場記念フェローシップ・プログラムも特筆すべきものです。現代イスラム思想家として世界的に知られるターリク・ラマダーン氏は来日講演で、危機意識が薄いと言われる日本に向け、「平和を愛する気持ちだけではいけない。声を上げる勇気と智慧、創造力を持って、絶え間ない努力を」という力強いメッセージを投げかけました。

2013年度に創刊した広報誌『I-House Quarterly』は、国際文化会館の日頃の活動を伝える媒体として引き続き好評をいただいております。国際文化

会館ウェブサイトとも連動し、プログラム実施後には全編またはハイライトをテキストや動画でも発信しております。2013年度まで年2回発行していた『会報』や『Bulletin』のバックナンバーや会員限定の催しのご案内などは、会員の皆様のみが閲覧できる「会員専用サイト」に随時掲載しております。

また、2013年度にスタートした図書室の「Reading about Japan at I-House Library」では、日本美術収集家として世界的に著名なジョン・C・ウェバー博士に、美術蒐集にかける情熱について、著述家の伊藤恵子氏にイギリスにおける日本人の歴史について、それぞれお話しいただきました。さらに、国際交流基金上席顧問である小倉和夫氏をモデレーターに迎えた特別セッションでは、W・B・イエイツ作『The Dreaming of the Bones (骨の夢)』の英国人俳優たちによるドラマリーディングと、能「錦木」の上演が好評を博し、2016年度も多くの皆様にお楽しみいただきました。このような図書室活動が評価を受け、専門図書館協議会より団体功績表彰が授与されました。加えて、国際文化会館が戦後の国際文化交流史において重要な役割を担ってきたことに鑑み、図書室では大量に保管されている内部資料をアーカイブ化する

準備を始めました。

恒例行事として定着した会員晩餐会では、歌舞伎俳優である松本幸四郎丈を特別ゲストとしてお招きし、日本人初のブロードウェイ主演を果たされた際の興味深いお話を伺いました。

また、これまでもご報告してまいりました「六本木五丁目西地区市街地再開発計画」につきましては、今秋頃提示される新基本計画案ならびに年末頃に策定が見込まれる都市計画素案に対し、国際文化会館としても対応を検討するための専門委員会を設置いたしました。今後も、国際文化会館と直接関係のある計画の進展については、随時会員の皆様にもご報告させていただく予定です。

5年後に設立70周年を迎えるにあたり、国際文化会館は世界と日本人々の理解を進めるためのさまざまなプログラム活動を地道に続け、さらなる国際間の信頼関係構築に向けて、文化交流・人物交流を推進してまいります。また同時に、会員の皆様をはじめ多くの方々にご満足いただけますよう、施設やサービスの維持・向上に向けて、独自性・公益性をさらに強化する努力を続けてまいります。引き続き、温かいご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

2017年9月

理事長 明石 康

# プログラム活動

## I. 知的対話プログラム

### アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)は、2016年度で21年目を迎えました。ALFPでは、毎年日本を含むアジア各国から7~8名のパブリック・インテリゲンチアルが選抜され、フェローとして2か月間日本でのプログラムに参加しています。プログラム期間中フェローは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論します。こうした知的対話を通じてALFPは、地域内ならびにトランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテリゲンチアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワークの構築を目指しています。2016年度は、7名のフェローが参加しました。現在までの累計で、学界、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO(非政府組織)、NPO(非営利組織)など、さまざまな専門領域のフェロー124名が選ばれています。



セミナー

2016年度は、「Seeking Our Commons in Asia: How Can We Create Visions for the Future?」という共通テーマのもと、フェローは9月5日から10月28日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO/NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加しました。プログラムの最後には公開報告会を開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表しました。

2016年度に参加した7名のフェローは、以下の通りです。

藤岡恵美子(日本)／特定非営利活動法人ふくしま地球市民発信所事務局長

アムラン・ホセイン(バングラデシュ)／ダッカ大学政治学部准教授

イ・テホ 李泰鎬(韓国)／参与連帯(PSPD)政策委員会委員長

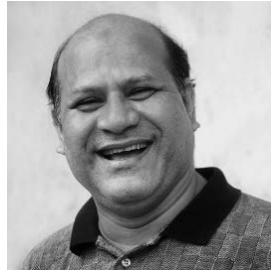
ファン・ゴック・ジエム・ハン(ベトナム)／レインボー・メディア&エンターテインメントCEO



フィールド・トリップ



藤岡恵美子



アムラン・ホセイン



イ・テホ



ファン・ゴック・ジエム・ハン



クマール・スンドラム



クリセルダ・ヤベス



アヤン・ウトリザ・ヤキン

クマール・スンドラム(インド)／核軍縮平和連合(CNDP)上席研究員

クリセルダ・ヤベス(フィリピン)／ライター、フリージャーナリスト

アヤン・ウトリザ・ヤキン(インドネシア)／国立イスラム大学ジャカルタ校講師、ナフダトゥル・ウラマー中央指導部モスク対策副議長

フェローはプログラムの期間中、東京では、田辺明生氏(東京大学教授)、添谷芳秀氏(慶應義塾大学教授)、松山大耕氏(臨済宗妙心寺退蔵院副住職)、キャシー松井氏(ゴールドマン・サツ

クス証券副会長)、アンバス・R・オカンボ氏(アテネオ・デ・マニラ大学准教授、2014年度ALFPフェロー)などの国内外の有識者と対話し、NHK、朝日新聞東京本社、防衛大学校などを訪問しました。また、フィールド・トリップとして沖縄県を訪れ、平和と米軍基地問題、伝統芸能の継承、環境問題、町並み保全の取り組みなどについて学ぶ機会を得ました。この他フェローの間で、アジアにおける喫緊の課題について議論するワークショップなども行いました。

## 牛場記念フェローシップ

世界的なオピニオン・リーダーを招聘し、現代の複雑化した国際情勢を読み解きグローバル社会が直面する諸課題について意見交換を行うことにより、日本と諸外国との相互理解の増進を試みるプログラムです。フェローは滞日中に、公開講演会と専門家を中心としたセミナー、ワークショップなどに講師として参加するほか、国際文化会館が各フェローの希望に応じて非公式な対談やディスカッションの機会を設定します。なお本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施しています。

2016年度は、2014年度に選出された、ターリク・ラマダーン氏(Tariq Ramadan、オックスフォード大学教授)を9月9日より9日間招聘しました。ラマダーン氏は滞日中、国際文化会館での講演のほか、日本学術振興会科学研究費基盤研究「イスラーム・ジェンダー学の構築のための基礎的総合的研究」(代表：長沢栄治 東京大学教授)との共催ワークショップにて講演を行い、東京および京都にて宗教間対話についての懇談会に参加しました。また、NHK、テレビ東京、朝日新聞社、岩波書店の取材を受け、各媒体にてその内容が放映・掲載されました。

国際文化会館主催講演会

「共に生き、共に創る未来」(9月14日)

講師：ターリク・ラマダーン／オックスフォード大学教授

司会：飯塚正人／東京外国語大学アジア・アフリカ語研究所所長

イスラーム・ジェンダー学国際ワークショップ  
「ターリク・ラマダーン氏を迎えて」(9月16日)

講師：ターリク・ラマダーン

ディスカッサント：岡 真理／京都大学教授  
鵜戸 聡／鹿児島大学准教授



ターリク・ラマダーン



共に生き、共に創る未来

## 日印対話プログラム

日印平和条約の締結から60周年を迎えた2012年に、日印間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を国際交流基金との共催で立ち上げました。本プログラムでは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提唱し、またインド国内において影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1名、1週間程度日本に招聘しています。フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視



察などを通して、日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行います。

2016年度は、4人目のフェローとして、世界30カ国以上で事業展開するインドのピラマル・グループの旗艦企業ピラマル・エンタープライズの副社長で、Business Today誌の「インドでもっともパワフルな女性25人」に、8年にわたり選出されたスワティ・ピラマル氏を招聘しました。ピラマル氏は、8月26日から9月2日に来日し、滞日中は国際文化会館での講演のほか、日本のジャーナリストや女性リーダー、有識者との対話などに参加しました。

### 「インドの新たな挑戦—医薬技術が社会を変える」(9月1日)

講師：スワティ・ピラマル／ピラマル・エンタープライズ副社長

コメンテーター&モデレーター：竹中千春／立教大学教授



スワティ・ピラマル



インドの新たな挑戦—医薬技術が社会を変える

## 日米国際金融シンポジウム

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム(PIFS)との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施しています。本シンポジウムは、毎年日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など100名以上が参加し、2日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる課題について討議を行います。

第19回シンポジウムは、10月28～30日に長野県軽井沢町で開催され、日米から135名が参加し、以下の3つのテーマについて討議しました。

- (1) 金融システムは再び崩壊の危機に直面するか—震源地は欧州、新興国、あるいは中国？
- (2) 日米における金融政策の効果と限界と副作用
- (3) 米大統領選の結果の日米関係への影響



日米国際金融シンポジウム

## Ⅱ. 人材育成プログラム

### 教育プログラム

#### 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO/NPO、官公庁、研究機関などの若手・中堅の社員・職員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的として、2008年度から実施しているもので、2016年度に第九期を迎えました。これまでに127名が塾生として参加し、修了生ネットワークを形成しています。塾長は明石康(国際文化会館理事長)、コーディネーターは渡辺靖氏(慶應義塾大学SFC教授)が務めています。

第九期には、書類選考(願書・小論文)と面接を経て、官公庁、企業(商社、メーカー、コンサルなど)、在京大使館、メディアおよび人道支援団体などから14名の塾生(平均年齢32.2歳)が選抜されました。6月から12月まで全14回の講義を行い、うち5回の講義を一般に公開しました。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人MRAハウスの助成を受けて実施しています。

カリキュラムは、講義を中心に、スタディ・ツアーや合宿などから構成されており、2016年度のカリキュラムは以下の通りです。

「激動のアジアに見る日米関係」(公開)(7月2日)  
ロバート・M・オアー／戦略国際問題研究所  
[CSIS]アジア太平洋部門理事、前アジア開発銀行  
米国大使



ロバート・M・オアー

伊勢志摩スタディツアー(7月9～10日)  
「ポストサミットについて」  
鈴木英敬／三重県知事



鈴木英敬

「伊勢神宮について」  
石垣仁久／神宮司庁広報室課長



石垣仁久

「海女文化について」

小濱 学／三重県社会教育・文化財保護課  
濱口花雪／海女 ほか6名



小濱 学

「突破する力」(公開)(8月6日)

岩瀬大輔／ライフネット生命保険株式会社代表  
取締役社長兼COO



岩瀬大輔



地元の海女の方々との交流

2004年ALFPフェローとの対話(8月20日)

キンレイ・ドルジ／ジャーナリスト、前ブータン  
王国情報通信省次官



キンレイ・ドルジ

「日本経済立て直し—真の立役者『文化』」

(7月23日)

デービッド・アトキンソン／株式会社小西美術  
工芸社代表取締役社長



デービッド・アトキンソン

「渋沢栄一 愛と勇気と資本主義～未来を拓く経営思想～」(9月3日)

渋澤 健／コモンズ投信株式会社取締役会長、公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事



渋澤 健

研修合宿(9月24~25日) 於：国際文化会館  
「私たちが描く2030年のシナリオ」  
渡辺 靖／慶應義塾大学SFC教授  
千野境子／産経新聞社客員論説委員



渡辺 靖



千野境子

「共生一和の世界を求めて」(公開)(10月1日)  
松山大耕／臨済宗妙心寺退蔵院副住職



松山大耕

アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム(ALFP)フェローおよびマンスフィールドフェローとの対話  
「Shaping Mirai TOKYO: The Lifestyles of Tokyoites Twenty Years into the Future(2035)」  
(10月15日)



ALFPフェローおよびマンスフィールドフェローとの対話

「能の身体性とその本質」(公開)(10月29日)  
梅若猶彦／観世流能楽師



梅若猶彦

塾長との討議(11月12日)  
明石 康／新渡戸国際塾塾長



明石 康

「柔道の国際化から考えるリーダーシップと  
チームワーク」(公開)(11月26日)  
山口 香／ソウル五輪女子柔道銅メダリスト、筑  
波大学大学院准教授



山口 香

修了式(12月3日)



修了式

## 海外諸団体との連携・協力プログラム

### 日米芸術家交換プログラム (共催：日米友好基金)

米国の芸術家5名(5組)が来日し、3～5カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、全米芸術基金(NEA)、文化庁の協力を得て、日米友好基金(Japan-United States Friendship Commission)が主催し、国際文化会館は滞日中のフェローの活動支援を受託しています。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしています。

2016年度に来日したアーティストは、以下の通りです。

ラターシャ・N・ネヴァダ・ディグス／詩人  
(5月より3カ月)

アレックス・ドッジ／美術作家  
(10月より3カ月半)

グレアム・コルベインズ／映画監督  
(4月より5カ月)

マークサーチ (スー・マーク&ブルース・ダグラス)／美術作家 (5月より5カ月)

パイパー・シェパード／美術作家  
(5月より3カ月)



ラターシャ・N・ネヴァダ・  
ディグス



アレックス・ドッジ



グレアム・コルベインズ



パイパー・シェパード



マークサーチ(スー・マーク&ブルース・ダグラス)

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJアーティスト・フォーラム(略称AF)」(助成：日米友好基金)を不定期に開催しています。

2016年度に開催したアーティスト・フォーラムは、以下の通りです。

### ワークインプログレス上映&トーク「クイアー・ジャパン プロジェクト」(5月10日)

スピーカー：グレアム・コルベインズ

トークゲスト：ヴィヴィアン佐藤／美術家、映画評論家、ドラッグクイーン

通訳およびトークゲスト：飯田ひろみ／プロデューサー



クイアー・ジャパン プロジェクト

### アーティスト・トーク「パイパー・シェパードのテキスタイル・アート」(6月7日)

スピーカー：パイパー・シェパード



パイパー・シェパードのテキスタイル・アート

ワークショップ「透かし模様：パイパー・シェパードとのコラボラティブ・ワークショップ」(6月8日)

講師：パイパー・シェパード



透かし模様：パイパー・シェパードとのコラボラティブ・ワークショップ

詩の朗読とヴォーカル・パフォーマンス「ツナメルト・サンドとその他の音の寓話」(7月7日)

出演：ラターシャ・N・ネヴァダ・ディグス

ゲスト奏者：松田 愛／和太鼓



ツナメルト・サンドとその他の音の寓話

アーティスト・トーク「なぞると発見」(9月29日)

スピーカー：マークサーチ(スー・マーク&ブルース・ダグラス)

モデレーター：林 暁甫／NPO inVisible マネージング・ディレクター



なぞると発見

ワークショップ「でも、それってアートなの？」(9月30日)

講師：マークサーチ(スー・マーク&ブルース・ダグラス)

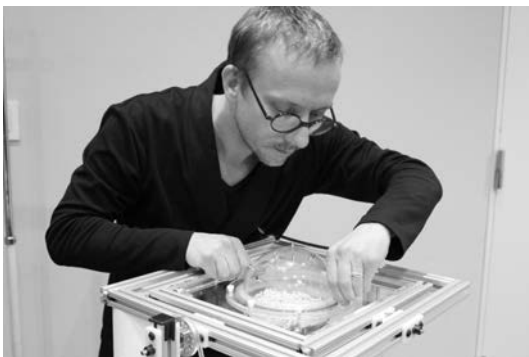
ゲスト・アーティスト：中森あかね／彗星倶楽部[金沢]



でも、それってアートなの？

アーティスト・トーク「ノイズからシグナルへ」  
(12月8日)

スピーカー：アレックス・ドッジ



ノイズからシグナルへ

展示「アレックス・ドッジーオープンスタジオ」  
(12月26日)

会場：代官山ヒルサイドテラスE棟ロビー



アレックス・ドッジー オープンスタジオ

### Ⅲ. パブリック・プログラム

#### 講演・シンポジウム

##### Architalk～建築を通して世界をみる

日本近代建築の巨匠3名(前川國男、坂倉準三、吉村順三)によって共同設計された国際文化会館には、創立当初から現在まで日本の建築界を牽引してきた建築家や建築関係者が会員として数多く在籍しているほか、海外からの建築関係者の来館も多数あります。これらのネットワークを活かし、国際文化会館の建物の再生が行われてからちょうど10年が経った2016年に、国内外で活躍する建築家を招き、建築を通して現代世界について考えるためのプログラムを開始しました。本プログラムでは、講演会終了後に懇親会を開催し、講師や参加者同士が懇談する機会を設けています。

2016年度は、小林正美氏(明治大学副学長)と藤村龍至氏(東京藝術大学准教授)をコーディネーターに迎え、以下の3回のプログラムを開催しました。(2017年4月10日の藤本氏講演会は2016年度の事業として実施)

また、日本建築学会、日本建築家協会の後援、森ビル、清水建設、天童木工、西原衛生工業所からの協賛をいただきました。



「森の時代」(4月21日)

隈 研吾／建築家



隈 研吾

「Another Utopia」(12月13日)

槇 文彦／建築家



槇 文彦

「Between Nature and Architecture」

(2017年4月10日)

藤本壮介／建築家



藤本壮介

## アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、分かりやすく解説する時事講演会です。

2016年度は、以下の2回の講演会を開催しました。

「フランスの移民政策の背景と今～日本が学ぶべきこと」(5月20日)

渡邊啓貴／東京外国語大学大学院教授



渡邊啓貴

「分裂するアメリカとトランプ新大統領の誕生」  
(2017年2月8日)

会田弘継／青山学院大学教授



会田弘継

## 日本理解プログラム

japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、国際文化会館がこれまで関係を築いてきた学会、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける国内外の専門家の協力のもとに英語で実施しています。

2016年度は、以下の講演会を開催しました。

「築地—ひとつの時代の終わり？」(7月11日)

テオドル・C・ベスター／ハーバード大学教授、  
同大学ライシャワー日本研究所所長  
ゲスト・スピーカー：

手島麻依子／松竹株式会社『TSUKIJI WONDERLAND』企画・プロデューサー

奥田一葉／『TSUKIJI WONDERLAND』プロデューサー



テオドル・C・ベスター

## IUCレクチャーシリーズ

主に北米の大学生・大学院生を対象に、中・上級日本語の集中教育を行う日本語教育・研究機関であるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(IUC)、国際文化会館および日本財団の共催事業として2014年度に開始したシリーズで

す。IUCの卒業生は、日本関係のあらゆる分野で、研究者や政府関係者あるいは実業家などとして活躍しています。本プログラムでは年2回、IUCを卒業後に各界で活躍している専門家を講師に迎えて講演会を実施し、研究成果を広く公開するとともに、留学生や若手日本研究者が集うための場を創出しています。

2016年度は、以下の2回の講演会を開催しました。

「日本人は特殊か？国際比較で見る日本の貯蓄率と遺産動機」(5月11日)

チャールズ・ユウジ・ホリオカ／アジア成長研究所主席研究員



チャールズ・ユウジ・ホリオカ

「『連濁』に見る日本語の奥行き」(2017年3月2日)

ティモシー・J・バンス／国立国語研究所教授



ティモシー・J・バンス

## 日文研・アイハウス連携フォーラム

京都を拠点に、日本の文化・歴史を国際的な連携・協力の下で研究するとともに、外国の日本研究者を支援している国際日本文化研究センター(日文研)と、国際文化会館の共同プログラムとして2014年度に開始しました。年4回程度、日文研の専任・客員研究員を講師とした講演会を会館で実施することにより、日本研究の最前線を紹介し、日本理解の促進を目指しています。

2016年度は、京都での初めての共催フォーラムを含め、以下の4回の講演会を開催しました。

### 「川端康成文学と中国美術」(7月27日)

周 閔／日文研外国人研究員、北京語言大学教授



周 閔

### 「海賊史観からみた世界史500年—『文明の海洋史観』の裏面を覗く」(10月14日)

稲賀繁美／日文研副所長・教授

コメンテーター：鞍田 崇／明治大学准教授



稲賀繁美

### 「志賀直哉の文学—外国語からの養分」

(2017年1月20日)

郭 南燕／日文研教授

コメンテーター：都甲幸治／早稲田大学教授



郭 南燕

「**ヴィジュアル資料が映し出す—帝国期日本の文化と社会**」(京都にて開催)(2017年3月7日)

ケネス・ルオフ／ポートランド州立大学教授

劉建輝／日文研副所長・教授

コメンテーター：バーバラ・ハートリー／日文研外国人研究員、タスマニア大学講師

司会：佐野真由子／日文研准教授



ケネス・ルオフ



劉建輝

**Delve into Japanese Culture @ I-House**

外国人宿泊者や海外から会館を訪れる方々を対象に、さまざまな切り口から日本文化に対する理解を深めていただく講座です。同時に、広く日本人の方々にも日本文化に対する新たな発見の機会を提供しています。外国人向けに日本語や日本文化講座を開催している(有)Kisako Intercultural Instituteとの共催で2014年度より実施し、2016年度は、以下の4回の講座を開催しました。

「**WASHI: Ancient and Modern Wonder**

**Material 和紙：その古くも新しい魅力**」(4月15日)

ポール・デンホード／和紙専門家、亜細亜大学講師



ポール・デンホード

「**Reading Haiku Beyond Borders 国境を越えて俳句を楽しむ**」(12月9日)

アビゲール・フリードマン／俳人、The Wisteria Group CEO



アビゲール・フリードマン

「The Art of *Ukiyo-e* and the Pleasures and Pitfalls of Collecting Them 浮世絵の世界—収集の愉しみと落とし穴」(2017年1月11日)

クリス・ウーレンベック／日本博物館シーボルトハウス・キュレーター、日本版画ディーラー



クリス・ウーレンベック

「Introducing *Kyogen* by Shigeyama Dōji 茂山童司が語る、狂言の楽しみ」(2017年3月9日)

茂山童司／大藏流狂言方



茂山童司

## 特別プログラム

### 『Paper Lanterns』

#### 日本プレミア上映会&トーク

原爆の犠牲となった12名の米兵の足跡を、40年以上にわたって丹念にたどってきた広島在住の歴史家・森重昭氏のドキュメンタリー映画を、日本で初上映しました。戦後70年の節目にあたり、モーリーン・アンド・マイク・マンズフィールド財団およびボストン・ジャパン・ソサエティとの共催で実施し、上映後には関係者によるトークセッションも開催しました。大変多くの申込みがあったため、同日に追加上映の回を設けました。

なお本プログラムは、駐日米国大使館から助成を得て実施しました。

### 『Paper Lanterns』

#### 日本プレミア上映会&トーク(4月12日)

森 重昭／歴史家

バリー・フレッシュェット／映画監督

ピーター・グリーンリ／プロデューサー

チャッド・キャノン／作曲家

藤澤麻衣／歌手



森重昭氏とピーター・グリーンリ氏

## 出版

### 公益信託長銀国際ライブラリー

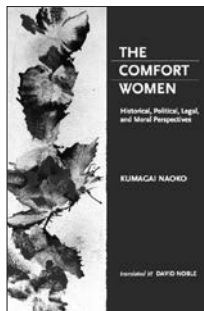
2000年7月に設定された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」の事業で、前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として国際文化会館が事業を継承しています。政治・経済・社会・文化などの日本人による著作を毎年2冊選定、英訳・刊行して広く国内外に配布し、海外における日本理解の増進に資することを目的としています。

選定した著作は、翻訳・編集のうえ刊行し、国内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外2,800カ所、国内700カ所へ無償配布しています。

2016年度の事業内容は、以下の通りです。

#### 【刊行・配布】

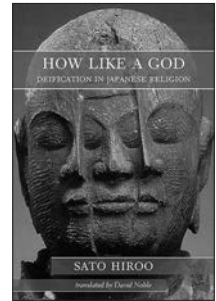
熊谷奈緒子著『慰安婦問題』  
(筑摩書房、2014年刊)  
*The Comfort Women:  
Historical, Political, Legal,  
and Moral Perspectives* by  
Kumagai Naoko  
翻訳者: David Noble



佐藤弘夫著『ヒトガミ信仰の系譜』(岩田書院、2012年刊)

*How Like A God: Deification in Japanese Religion* by Sato Hiroo

翻訳者: David Noble



#### 【英訳・編集】

小熊英二著『生きて帰ってきた男：ある日本兵の戦争と戦後』(岩波書店、2015年刊)

*Survivor: A Japanese Soldier's Journey through War and Peace* (tentative) by Oguma Eiji

翻訳者: David Noble

川勝平太著『日本文明と近代西洋：「鎖国」再考』(日本放送出版協会、1991年刊)

*The Lancashire Cotton Industry and Its Rivals* (tentative) by Kawakatsu Heita

翻訳兼編集者: Jean Connell Hoff

この2冊の刊行・配布をもって、公益信託長銀国際ライブラリー基金事業は終了いたします。

#### 第52回日本翻訳出版文化賞を受賞

日本翻訳家協会が主催する第52回日本翻訳出版文化賞を受賞し、10月21日に表彰を受けました。同賞は、過去1年で最も優れた翻訳書を刊行した出版社に対して贈られる伝統ある賞であり、今回は2015～16年に発行した以下3冊における、書籍の選定および翻訳の質が高く評価されての受賞となりました。

- ・ *Holy Foolery in the Life of Japan* (Waku Miller 訳)  
樋口和憲著『笑いの日本文化』
- ・ *Japan's Asian Diplomacy* (David Noble 訳)  
小倉和夫著『日本のアジア外交：二千年の系譜』
- ・ *The Akita Ranga School and the Cultural Context in Edo Japan* (Ruth S. McCreery 訳)  
今橋理子著『秋田蘭画の近代』

## アイハウス・プレス

2006年度より、出版メディアを通して、国際文化会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を実施しています。

2016年度は、新刊の刊行はなく、これまでに刊行した本の販売を継続して実施しました。

## 定期・不定期刊行物

2016年度は、年4回発行の広報誌『I-House Quarterly』(A4版/16ページ、和英併記)を10～13号まで発行し、各界で活躍する方へのインタビューや対談記事、実施済み講演のレポート、今後のプログラム、施設イベントなどを紹介しました。会館を知らない層、とりわけ国際問題や文化交流に関心のある30～40代に訴求すべく、各国際機関やメディアなど通常の配布ルート以外に、関連イベントなどでも積極的に配布しま

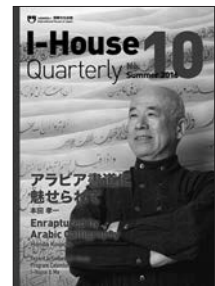
した。通常の発行部数は6,500部です。なお、これまで会員向けに『国際文化会館会報』および『IHJ Bulletin』で掲載してきた講演録は、会員専用のウェブサイトへ移行し、継続的に掲載しています。

また、各年度の事業内容をまとめた年次報告書(『国際文化会館の歩み』、『Annual Report』)を会員および関係機関に配布しました。

2016年度の刊行物は、以下の通りです。

- 英文年次報告書『Annual Report 61』  
(2015年度事業報告、9月発行)
- 和文年次報告書『国際文化会館の歩み 61』  
(2015年度事業報告、9月発行)

- 『I-House Quarterly』No. 10  
Summer 2016(6月発行)  
インタビュー：  
本田孝一/アラビア書道家  
エッセー：  
ダイアン・ダーストン/ポ  
ートランド日本庭園学芸部  
長 ほか



- 『I-House Quarterly』No. 11  
Fall 2016(9月発行)  
インタビュー：  
岡田利規/演劇作家  
エッセー：  
アンベス・R・オカンポ/  
アテネオ・デ・マニラ大学  
准教授 ほか



■『I-House Quarterly』No. 12  
Winter 2017(12月発行)  
インタビュー：  
国谷裕子／キャスター  
エッセー：  
渋沢雅英／渋沢栄一記念財  
団理事長 ほか



■『I-House Quarterly』No. 13  
Spring 2017(2017年3月発行)  
インタビュー：  
アビゲール・フリードマン／元米国外交官  
エッセー：  
藤原帰一／東京大学教授  
ほか



## IV. 調査研究プロジェクト

### 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い方々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で議論を深めるものです。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定しています。使用言語は日本語または英語です。

2016年度は、以下の懇談会を開催しました。

第27回

「国連と日本が直面するチャレンジの数々」

(9月6日)

吉川元偉／前国際連合日本政府代表部常駐代表



吉川元偉



第28回

### 「2016年アメリカ大統領選挙と日米関係」

(10月14日)

グレン・S・フクシマ／米国先端政策研究所上級研究員



グレン・S・フクシマ

第29回

### 「PKOと日本」

(2017年1月19日)

宮島昭夫／内閣府国際平和協力本部事務局長



宮島昭夫

## V. 図 書 室

国際文化会館の図書室は創設以来、日本理解を促す学術交流を活動の柱として、社会科学・人文科学の領域における日本研究、国際事情および東アジア事情に関する英文資料を主として収集しており、図書約27,000冊と雑誌約400タイトルを所蔵しています。さまざまな国籍の日本研究者、日本専門家、外交専門家、学者、芸術家、ジャーナリスト、著述業の来館者(会員、図書会員、会館滞在者または他図書館からの紹介による利用者など)のための、知識交流・知識創出の場としての役割を果たしています。来館者に対して、きめ細かな資料・情報・機関・人物の紹介を行うことを特色としています。また日本研究専門図書室として、日本研究の支援に関する事業も行っています。

### 利用状況と蔵書管理

2016年度の利用状況は、来館者数や貸出冊数などに減少がみられた一方で、レファレンス件数に若干の増加がありました。利用者から受ける質問の範囲は、著作権許諾取得、文献探索、専門機関や専門家の紹介、調査への助言など多岐にわたり、多様なニーズに対して最適な情報を提供するよう努めています。また、蔵書を中心とし興味を同じくする会員同士の交流が行われている様子がみられました。蔵書管理においては、除籍を行い適切な情報の提供ができる環境を整備するよう努めました。

	2015年度	2016年度
蔵書		
図書（冊）	27,480	27,470
雑誌タイトル（種）	411	390
受入図書（冊）	304	329
購入	180	127
寄贈	124	202
受入雑誌（冊）	2,598	2,543
除籍図書（冊）	302	339
開室日数（日）	294	292
来館者（人）	12,433	10,482
日本人	7,825	6,923
外国人	4,608	3,559
貸出（冊）	1,539	1,199
図書館間貸出（件）	78	132
依頼	31	72
受付	47	60
レファレンス（件）	947	954
来館	543	534
電話	21	24
手紙・ファックス	0	0
電子メール	383	396
パソコン利用者（人）	809	596
図書会員（人）	135	131
入会	32	33
退会	29	37

(2017年3月31日現在)

## リーディングセッション

図書室蔵書の朗読と解説を行い、参加者が自由にスピーカーと対話し、交流する機会を作ることを目指して、年に数回リーディングセッションを開催しています。毎回多くの参加があり、図書室広報の役目も果たしています。

2016年度は、以下の3回のリーディングセッションを開催しました。

「ジョン・C・ウェバー氏による『A New Yorker's View of the World: The John C. Weber Collection』リーディングセッション」(4月14日)

ジョン・C・ウェバー／日本美術収集家



ジョン・C・ウェバー



ジョン・C・ウェバー氏によるリーディングセッション

「小倉和夫氏と国際文化会館会員らによる、W・B・イエイツ作『The Dreaming of the Bones(骨の夢)』リーディングセッション ～能「錦木」のパフォーマンスとともに～」(10月25日)

モデレーター：小倉和夫／青山学院大学教授、  
国際交流基金上席顧問

コメンテーター：松村賢一／中央大学名誉教授



小倉和夫



松村賢一



寺井 栄



寺井千景



寺井美喜



ティモシー・ハリス

能楽師：寺井 栄／観世流シテ方  
 寺井千景／観世流シテ方  
 寺井美喜／観世流シテ方  
 役者：ティモシー・ハリス／役者、放送大学講師  
 ダレン・クレイグ／日本外国語専門学校  
 教員、元大和日英基金スコラー  
 タニア・コーク／女優、舞台芸術ディレ  
 クター  
 マイケル・リース／声優



小倉和夫氏と国際文化会館会員らによるリーディングセッション



ダレン・クレイグ



タニア・コーク

「伊藤恵子氏による『Japanese in Britain, 1863-2001: A Photographic Exhibition』リーディングセッション」(2017年3月8日)

伊藤恵子／作家、通訳



伊藤恵子



マイケル・リース



伊藤恵子氏によるリーディングセッション

## 書籍小展示

本小展示は日仏会館図書室、ドイツー日本研究所図書室と共催で行ったもので、同じテーマについて国際文化会館では英語の資料、日仏会館ではフランス語の資料、ドイツー日本研究所図書室ではドイツ語の資料を展示しました。

「没・100年 夏目漱石」(9月1日～30日)

「幕末の日本」(2017年3月1日～4月7日)



書籍小展示

## アーカイブ化準備

国際文化会館には写真、書簡などの文書、各事業の記録など、戦後の文化交流史を語る一次資料が大量に保管されています。これらの資料の活用を可能にし、総合的な基礎目録をインターネット上で公開することを目的として、3カ年計画(2017～2019年度)でアーカイブ事業を実施予定です。その準備段階として、2016年度は計画の策定、助成金の申請、専門家などへの意見聴取を行いました。

## 団体功績表彰

図書室は、専門図書館協議会の平成28年度総会・表彰式(6月23日)において、団体功績表彰を受章しました。

## VI. 協力・後援事業

2016年度、国際文化会館は以下の事業への協力・後援を行いました。

### 協 力

国際会議「The Culture Factor：グローバルな経営とリーダーシップにおける文化の要素」

(5月20日)

主催：ホフステッド・センター、イティム・インターナショナル、サイコム・ブレインズ株式会社

会場：国際文化会館

公開フォーラム「国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元—The Shifting Dynamics of the U.S.-Japan Alliance」(6月16日)

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニット

会場：国際文化会館

映画上映会&トークイベント『Meet the Patels』

(7月25日)

主催：駐日米国大使館

会場：国際文化会館

報告パネル「アジアリサーチネットワーク：アジア太平洋における米国の役割」(10月19日)

主催：モーリーン・アンド・マイク・マンسفールド財団、The Asian Institute for Policy Studies、Perth USAsia Centre

会場：国際文化会館

Innovative City Forum(10月19～20日)

主催：森記念財団都市戦略研究所、森美術館、アカデミーヒルズ

会場：虎ノ門ヒルズ

2016年度国際交流基金賞受賞記念スーザン・ファー氏講演会「日米関係の謎—50年を振り返って—」(10月21日)

主催：国際交流基金

会場：国際文化会館

ミャンマー初のリベラルアーツカレッジParami University創案者講演会(11月26日)

主催：特定非営利活動法人 Learning Across Borders

会場：国際文化会館

『『国際社会におけるリスクの多様化と安全保障・外交の新次元』に係る五大会議の公開パネル『東アジアの安全保障問題について』』

(12月2～3日)

主催：東京大学政策ビジョン研究センター安全保障研究ユニット

会場：国際文化会館

公開シンポジウム「アメリカのリベラルアーツ教育の将来」(2017年1月12日)

主催：グルー・バンクロフト基金

会場：国際文化会館

### 後 援

第3回日中韓協力ダイアログ「日中韓パートナーシップの深化と発展を目指して～情報と経験の共有から相互信頼の醸成へ」(10月21日)

主催：国際経済交流財団、外交学院、東アジア財団

会場：国際文化会館

川村毅+ジョン・ジェスラン国際プロジェクト東京/ニューヨーク往復書簡第三章『わたしは黄金の破片の上を往く』(2017年3月10～11日)

主催：ティーファクトリー

会場：セゾン文化財団森下スタジオ

# 組織運営の概況

## I. 法人組織関連事項

### 理事会・評議員会

2016年度中の理事会・評議員会の開催は、以下の通りです。

2016年度第1回理事会	5月26日開催
同 第2回理事会	6月21日開催
同 第3回理事会	11月22日開催 (書面表決)
同 第4回理事会	2017年3月15日開催
2016年度臨時評議員会	5月9日開催 (書面表決)
同 第2回臨時評議員会	6月17日開催 (書面表決)
同 定時評議員会	6月21日開催
同 第3回臨時評議員会	12月2日開催 (書面表決)

### 役員関連事項

2016年度中の評議員、監事、理事等の異動は、以下の通りです。

#### 【評議員】(全て6月21日付)

(重任) 阿川尚之	ディビッド・バスカビル
モンテ・カセム	行天豊雄
チャールズ・レイク	松本 大
村上陽一郎	渋谷雅英
添谷芳秀	高原明生
竹中千春	渡辺 靖
吉澤建治	
(新任) アン・ケーリ	池田祐久
小林いずみ	近藤正晃ジェームス
小川 忠	吉本光宏
(退任) グレン・フクシマ*	北垣宗治*

南條史生\*  
佐多保彦

大宮 正\*  
手納美枝\*  
\*同日付顧問に就任

#### 【監 事】(全て6月21日付)

(重任) 宮尾舜助 豊松秀巳

#### 【理 事】

(重任：6月21日付)

明石 康  
降旗高司郎  
原田明夫  
小林正美  
小松諄悦

千野境子  
後藤乾一  
五百旗頭 真  
国分良成  
久保文明

(新任：6月28日付)

番場孝司

(退任：6月21日付)

別府恵子\*

中里健一\*

\*同日付顧問に就任

#### 【代表理事】(全て6月21日付)

(重任) 明石 康(理事長)  
降旗高司郎(常務理事)

(退任) 中里健一(常務理事)

#### 【業務執行理事】(6月28日付)

(新任) 番場孝司

年度末現在、評議員19名、監事2名、理事12名の体制です。

### 委員会関連事項

2016年度中、以下の二つの委員会を設置し、各諸問題について取り組んでいます。

#### 【会員制度検討委員会】(2017年3月15日付)

理事長：明石 康

評議員：アン・ケーリ  
近藤正晃ジェームス  
添谷芳秀

理事：千野境子  
後藤乾一  
久保文明

【六本木五丁目西地区市街地再開発検討委員会】  
(2017年3月15日付)

理事長：明石 康

評議員：池田祐久  
松本 大  
竹中千春  
吉澤建治

理事：小林正美  
国分良成

外部委員：田村誠邦／(株)アークブレイン代表  
升田 純／顧問弁護士

### 職員関連事項

2016年度中、新規採用者は無く、年度末現在の職員数は15名(男性4名、女性11名)の体制です。

### 庶務関連事項

#### 六本木五丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木五丁目西地区市街地再開発準備組合」に、国際文化会館は同組合の副理事長として参加しており、この地区の将来に向けた新しい町づくりについて検討、意見交換を行っています。近隣の方々と協調して、この地区の歴史、文化および緑の環境を守ることを念頭に、より良い町づくりに努めています。

## Ⅱ. 募金活動

### 助成金・寄付金

2016年度中に領収した助成金・寄付金の合計額は、78,697千円となりました。概要は以下の通りです。(「正味財産増減計算書」参照)

国際交流基金	21,571千円 (千円以下四捨五入)
日米国際金融シンポジウム	14,300
ハーバード・ロースクール	10,290
日米友好基金	5,856
MRAハウス	3,000
渋沢栄一記念財団	1,200
森ビル株式会社	500
米国大使館	319
霞会館	300
清水建設株式会社	300
株式会社天童木工	300
株式会社西原衛生工業所	50
入会時寄付金	12,950
諸寄付	7,760



### Ⅲ. 会 員

#### 個人会員

2016年度、115名(日本人94名、日本人以外21名)が入会し、自己都合、死亡・会費滞納等により118名(日本人82名、日本人以外36名)が退会しました。年度末現在の会員数は2,892名(日本人2,058名、日本人以外38カ国・地域834名)となり、前年より3名(日本人12名増、日本人以外15名減)の減少となりました。内訳は、以下の通りです。(2017年3月31日現在)

	日本人	日本人以外	小計	合計
新規入会	94	21		115
退会	36	11	47	
死亡	34	11	45	
登録抹消	12	14	26	
小計	82	36		118
差引合計	+12	-15		-3

#### 法人会員

2016年度、8法人(8口)が入会し、9法人(10口)が退会および減口した結果、1法人(2口)の減少となり、年度末の法人会員数は175法人(204口)となりました。口数別内訳は、以下の通りです。(2017年3月31日現在)

	法人数	口数	前年度比
4口会員	2	8	0
3口会員	3	9	0
2口会員	17	34	-1 (-2口)
1口会員	153	153	0
合計	175	204	-1 (-2口)

#### 優待会員

都内在住の各国大使、国際機構の日本支部の代表などによって構成される優待会員制度は廃止されており、年度末現在1名のみとなりました。

#### 図書会員

研究調査活動のために、図書室の所蔵資料や情報サービスの利用を希望する研究者を対象とした図書会員制度への登録者数は、本年度33名が入会し、37名が退会したため、年度末現在131名(日本人63名、日本人以外14カ国・地域68名)になりました。

## 会員晩餐会

文化交流と知的協力の場として、会員同士が親しく語り合い交流する会員晩餐会を、12月5日に開催しました。特別ゲストとして歌舞伎俳優の松本幸四郎丈をお迎えし、「歌舞伎とブロードウェイ」と題して、日本人として初めてブロードウェイで主演された際の興味深いお話を伺いました。99名の会員とゲストの皆様は、71年の芸歴に裏打ちされたお話に聞き入り、交歓のひとつときをお楽しみいただきました。



松本幸四郎



会員晩餐会

## 新入会員懇親会

国際文化会館の理念・活動・施設をご理解いただくとともに、会員間の親睦を図る場として、2015年9月から2016年5月までの期間に新規入会された会員の皆様を対象に、7月20日に懇親会を開催しました。

### 「国際文化会館の庭

#### —作庭家 重森千青氏と歩く」

京都の作庭家、七代目小川治兵衛の手掛けた国際文化会館の庭園をご案内する催しを、2017年3月10日に開催しました。現在庭園を監修する重森千青氏に、国際文化会館の庭園とその手入れについてお話を伺い、参加された20名の会員の方々には、庭園の散策と併せてお楽しみいただきました。



国際文化会館の庭 — 作庭家 重森千青氏と歩く

## Ⅳ. 施設関連事項

麻布消防署より、国際文化会館のこれまでの防火管理業務協力における功労が認められ、11月14日に「東京消防庁・予防部長感謝状」および「麻布消防署・署長感謝状」を受章いたしました。

## Ⅴ. 施設運営・サービス活動

国際文化会館は、自らの企画の実施や会員をはじめとする国際交流、文化活動に従事する方々のひろばとして供するための施設を有しています。施設の内容は大別すると、国内外の知識人・文化人に利用されている宿泊施設と国際文化交流のための会合施設、そして飲食施設から成り立っています。研究個室(宿泊施設/全44室)は庭園に面しており(西館の一部を除く)、四季折々の美しい自然は多くの利用者より愛されています。

2016年度には、50以上の国と地域から延べ15,182名の宿泊客をお迎えし、このうち外国人の利用が63.1%と、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化人、知識人の方々が集う施

設としての特色をよく発揮しています。

会合施設のうち、別館2階講堂(120名収容)は講演会・シンポジウム・国際会議などに、また別館1階3部屋および西館4階に4部屋あるセミナー室は各種ミーティング・勉強会などに幅広く利用されており、1年間の利用者は延べ35,108名でした。東館の会合施設には、庭園に面した分割可能な地下大会議室の樺山愛輔/松本重治ルームと岩崎小彌太記念ホールがあり、多種多様な催し物の開催が可能です。大会議室とホールを連動して利用する200名程度の講演会・国際会議・学会議・記念行事・コンサート・研修・婚礼関連などのさまざまなご要望にお応えして、延べ35,116名にご利用いただきました。

ティーラウンジ「ザ・ガーデン」は宿泊客の朝食に始まり、気軽なランチ、ティータイムそしてディナーと終日提供しており、延べ64,965名にご利用いただきました。

レストラン「SAKURA」は会員、宿泊客、ゲストの方々のサロンとして活用され、延べ16,736名にご利用いただきました。定番のプリフィックス・ランチから季節に合わせて、夜桜会席



観桜会



ガーデン・ピクニック

ディナー・お花見弁当・懐かしのフレンチメニュー・秋を楽しむフレンチディナー・クリスマスディナー・おせちなどの企画を打ち出し、特に毎月入れ替わるブリフィックス・ランチメニューとディナーコースメニューは美味との定評をいただき、四季折々の庭園の風情とあいまって、好評を博しています。その結果、別館を含む会場施設および料飲施設の総利用客数は、延べ151,925名でした。

施設を会場とする懇親の催しも年間を通じて主催し、恒例の春の「観桜会」、夏の「ガーデン・ビアパーティー」、秋の「ワインパーティー」、そして年末の「クリスマス晩餐会」を行いました。観桜会(3月31日～4月1日、参加者延べ224名)では、樽酒の鏡開きを行い、ガーデン・ビアパーティー(7月29日、参加者203名)では、真夏の宵にテーブルを庭園に特設、ワインパーティー(11月17日、参加者145名)では、日程をボージョレ・ヌーボーの解禁日に合わせて新酒をご賞味いただきました。クリスマス晩餐会(12月23～25日、参加者延べ223名)では、ロビーにて鳥居坂教会の聖歌隊による聖歌の合唱をお楽しみいただきました(24日のみ)。



クリスマス晩餐会

## IV. 財 政

国際文化会館の会計は、公益財団法人への移行に伴い新公益法人会計基準に基づき、正味財産増減計算書にてご報告します。従来からの主な変更点は、特別会計・一般会計の区分の撤廃、保有有価証券の評価損益の計上等です。

2016年度の一般正味財産増減の部における経常収益合計は995,105,497円、経常費用合計は984,107,015円で、特定資産評価損616,305円を調整後の当期経常増減額は10,382,177円でした。このため、一般正味財産期首残高2,347,347,573円を加えた一般正味財産期末残高は、2,357,729,750円となりました。また、指定正味財産増減の部における当期指定正味財産増減額は、△2,186,014円で、指定正味財産期首残高20,918,642円を加えた指定正味財産期末残高は、18,732,628円となりました。

# 会員関係付表

(2017年3月31日現在)

## 個人会員国籍別統計

国／地域	計 2016年3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	計 2017年3月31日
オーストラリア	26	1	0	0	0	27
オーストリア	4	0	0	0	0	4
ベルギー	4	0	0	0	0	4
ブラジル	1	0	0	0	0	1
カナダ	33	1	0	2	0	32
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3
チェコ	0	0	0	0	0	1*
デンマーク	2	0	0	0	0	2
エクアドル	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	11	0	0	0	0	11
ドイツ	30	1	2	0	0	29
香港	1	1	0	0	0	2
ハンガリー	1	0	0	0	0	1
インド	9	1	0	0	1	9
インドネシア	3	0	0	0	0	3
アイルランド	6	0	0	0	0	6
イスラエル	2	0	0	0	0	2
イタリア	6	1	0	0	1	6
日本	2,046	94	36	34	12	2,058
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	18	3	0	0	2	19
マレーシア	4	0	0	0	0	4
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	6	1	0	0	0	7
ニュージーランド	2	0	0	0	0	2

(次頁に続く)

フィリピン	4	0	1	0	0	3
ポルトガル	1	0	0	0	0	1
ロシア	1	0	0	0	0	1
シンガポール	5	0	0	0	0	5
スペイン	1	0	0	0	0	1
スウェーデン	12	0	1	0	1	10
スイス	6	0	0	0	1	5
台湾	3	0	0	0	0	3
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	4	0	0	0	0	4
イギリス	55	1	1	1	1	53
アメリカ	568	10	6	8	7	556*
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,046	94	36	34	12	2,058
日本人以外	849	21	11	11	14	834
合計	2,895	115	47	45	26	2,892

\*国籍変更…USA→チェコ

## 会員比率

